

人生は予想外のことばかり。思わぬところに落とし穴があれば、同時にお宝も眠っています。例えばポテトチップスは料理の失敗から、ペニシリンは実験室の事故から生まれました。どこにアイデアの種が眠っているかわかりません。小さな出来事にも目を凝らし、偶然を味方に好奇心を武器に、新しい扉を開けましょう。

知っどこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識：【新紙幣の発行と税金の関係】

20年ぶりに新紙幣が発行されました。その目的のひとつに紙幣の偽造防止があります。今回も3Dホログラムなど、最新の技術が使用されています。また別の目的としては「タンス預金のあぶり出し」が考えられます。



旧札の流通が少なくなると、タンス預金を新札に交換したくなるのが心情です。しかし多額のお金を金融機関で交換すると、そこに記録が残って税務署などに財産が把握されることにもなります。また国税庁では「国税総合管理（KSK）システム」を使って、全国の国税局と税務署をネットワークで結び、情報を一元管理しています。例えば、ある家族に相続が発生した場合、被相続人（亡くなった人）の生前の収入からすると、3億円ほどの財産があつてしかるべきだとKSKシステムが予想したのに対し、申告書には1億円と記載されていたとします。被相続人が生前に使ったのか、またはタンス預金などで2億円ほど隠し持っているのか。それを確かめるために税務調査官が真実を追求する流れとなります。

光を放つ 名言コラム

【挑戦することで自分もより豊かになる】

子役として人気を博したあと、3年間のイギリス留学を経て、俳優として活躍する加藤清史郎氏。新聞のインタビューで将来の目標について聞かれ「挑戦し続けることです。挑戦することで、自分も作品もより豊かになると信じて突き進みたいと思います」と語っていました。目標を達成したり何かに成功したりすることは素晴らしいことです。しかしそれは新たなスタートでもあります。そこで「成功した名声」にこだわると、失敗することを恐れて次のステージに挑戦することが難しくなりそうです。大きな成功であればあるほどなおさらそうかもしれません。しかし加藤氏のように挑戦すること自体に価値を見出せば、成功も失敗も自分を豊かにする経験のひとつになります。失敗しても「新たな挑戦の種が見つかった」というように。リラックスしてのびやかに挑戦する日々は豊かな時間そのものなのかもしれません。

世界の偉人伝

今月の偉人：【ニコラ・テスラ】

ニコラ・テスラは20世紀初頭に活躍したセルビア出身の発明家です。幼い頃から神童ぶりを発揮し、グラーツ工科大学で学んだ後に交流モーターを発明しました。直流電流を推進するエジソンと敵対した「電流戦争」を制し、交流の送電システムを世界に広めた功績は計り知れません。「私の脳は宇宙にあるコアからインスピレーションを得る受信機にすぎない」と言い、革新的かつ時に奇想天外な理論を多く考案して工学技術に貢献しました。まさに宇宙の英知を授かった奇才だったのです。

キッチン用のスポンジに包丁などで切れ目を入れ、そこに食器や調理器具をはめ込むことで、細かい部分も洗いやすくなります。特に縦横に2本ずつ切れ目を入れると、グリルの網や五徳など、複雑な形状の器具から小さなカトラリー類まで簡単に洗えます。



才人の言葉

今いる場所が嫌なら
変えたほうがいい
あなたは末ではなからだから

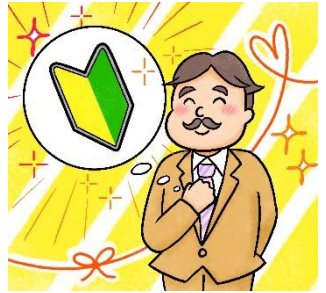
アメリカの起業家、作家であるジム・ローンの言葉。今の環境に不満があるなら動いてみたらいい。そこに居続けなければならない理由はない。動いてみたらいい。

振り向けば あそこにも ここにも 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【日々初心にかえる】

「初心忘るべからず」。人生の中で何十回も見聞きしたこの言葉は、もともと世阿弥（ぜあみ）の『風姿花伝（ふうしかでん）』の中に記されたものです。能楽の文脈で語られた教えが、商売の世界にも通じる普遍的な知恵であることを今一度、思い出してみたいと思います。経営者にとって「初心」とは創業時の志や熱意を指します。なぜ会社を立ち上げたのか。誰のために何を実現しようとしたのか。商売を続けていく上で、初心は原点でもあります。同時に「初心」には、常に新たな気持ちで臨むという意味もあります。商売が上向いてくると、慢心やおごりが生まれやすくなります。しかし市場は絶えず変化し、新たな課題が次々と生まれます。そのたびに初心者の目線で状況を見直し、柔軟に対応する姿勢を忘れないようにしたいものです。また「初心忘るべからず」の精神は、イノベーションの源泉にもなります。今までの成功体験に安住せず、新しい価値を作り続けていく挑戦こそが、商売の持続的成長には不可欠でしょう。さらには、顧客や従業員との関係性にも応用できる考え方です。

商売が拡大すると、個々の顧客や従業員との距離が遠くなりがちです。新規顧客や今の従業員はもちろん大切ですが、創業期からのご縁に対する感謝を忘れていないでしょうか。今は関りがなくても、会社を支えてくれた大事なご縁に違いはありません。「初心忘るべからず」は単なる格言ではなく、日々の意思決定や行動の指針となる極めて実践的な心構えです。現状が良くてもそうでなくても、日々初心にかえることができれば、商売も人間性も真の意味で成熟していけるように思います。



今月のトピック：【プチ湯治】

温泉地に長期滞在して療養をする湯治。古くから伝わる習慣が、人生を変える旅として脚光を浴びています。観光はせず、温泉に浸かってのんびり過ごす。あえて「何もしない」ことがデジタルデトックスや睡眠の質を改善して、本来の「素の自分」を取り戻せると評判です。週末を利用した数日間のプチ湯治が、現代人の疲れた心を癒します。



トナリの本棚

【休養学】

医学博士の片野秀樹が休み方を提案する著書。7つに分類された休養タイプを組み合わせて活力を高めます。自分に合った休み方を見つけたくなる一冊です。



元氣と氣づきを提供する
東京都豊島区池袋の佐藤茂税理士事務所

豊島区池袋 2-60-7 ルート池袋第3ビル4階

電話：03-3988-8820 FAX：03-3988-8824

<http://www.satousigeru.jp>